

救命救急



中央消防署 消防司令補 (救急救命士) **楠田 彰布**

感染防止の装備を追加して対応

救急隊はこれまでも感染症対策を行っていましたが、新型コロナウイルス感染防止のためさらに対策を強化しています。ウイルスは目に見えないため万全の対策は難しいのですが、まずは隊員の感染を防ぎ、さらに三次感染を防ぐことを考え緊張感をもって対応しています。指令管制室から感染の可能性があるとの情報があった場合、通常の服装に装備を追加し、感染予防を行います。

迅速に医療機関へ搬送するために

出動している救急車から隊員が直接、患者さんやご家族へ電話をすることがあります。到着までに状況を伺うことで、現場滞在時間を短縮し、ひいては患者さんの負担を減らすことが目的です。救急車は場所が特定できたらすぐに出動しますので、指令管制室との通話が終了しても連絡が取れる状態でお待ちください。

感染症を意識した新しい応急手当

1. 人工呼吸は行わない

※子どもの場合は、状況に応じて人工呼吸が必要となりますので、指令管制員の指示に従ってください。



2. 胸骨圧迫開始前には、ハンカチ等を口にあてる



3. 応急手当時は換気を行い三密を避けて



感染症を防ぐための装備



感染が疑われる出動の場合は、これらの装備を行い、搬送後、密封して廃棄を行います。

全車にオゾン(O₃)発生装置を配備

救急車には感染リスクを軽減するための、オゾン発生装置を配備しています。また、搬送後は毎回、車内をアルコールと次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒しています。

市民の皆さんへ

さまざまなウイルスの同時流行にしっかり備えています

気温と湿度が低下するこれからの季節は、さまざまなウイルスの活性化が懸念されます。特に新型コロナウイルス感染症とインフルエンザは「高熱」や「咳」など似た症状を示すためどちらか判別がつかず、「救急車を呼んでいいのか?」「どう伝えればいいのか?」と、ためらうことがあるかもしれません。しかし、いち早い出動が命を守ることに繋がりますので、緊急の場合は、迷わず119通報してください。消防指令管制室ではフェーズに合わせて聞き取り項目を変える対応をしており、質問に答えるだけで患者さんの状況を的確に判断。いかなる状況下でも安全で速やかな搬送につなげています。

応急手当に関するオリジナル動画が完成!

新型コロナウイルス感染症の影響で、救急講習などの中止や規模縮小が余儀なくされている一方、市民の皆さんから開催を希望する声が多くありません。そこで、消防局と熊本城おもてなし武将隊がタッグを組み、応急手当に関するオリジナル動画「応急手当でおもてなし」を作成しました。企画・撮影・編集のすべてを職員が担い、熊本城おもてなし武将隊が出演するドラマ仕立てになっていますので、正しい応急手当について楽しく学べます。

「人を想うところ＝おもてなし」が詰まったこの動画をきっかけに、一人でも多くの命が救われることを願っています。市公式YouTubeチャンネルで見ることができますので、ぜひチェックしてください。

You Tube「応急手当でおもてなし」はこちら➡



(消防局 総務課 ☎096-363-0119)

くまもとさん 148



作: 桜田幸子